

島国の文化も守ってる？

「青い羽根募金」を ご存知ですか？

日本海事広報協会が発行している「海上の友」に寄稿させていただきました。

日本水難救済会の「青い羽根募金」活動を紹介。資料として記事を転載しご報告いたします。

(全日本内航船員の会 事務局)

海上の友(令和5年12月1日号)の記事を紹介いたします。以下転載

「青い羽根募金」をご存知ですか？

～ 海の救難ボランティアを支援 ～

全日本内航船員の会 事務局長 松見 準

赤い羽根共同募金は聞いたことがある人も多いと思いますが、青い羽根の募金活動はあまり耳にしません。10月、横浜の日吉駅前で募金活動が行われていました。

大きなのぼりには「海の救難ボランティアを支える」と書かれています。聞けば、公益社団法人日本水難救済会が地方水難救済会と協力して展開している募金活動で、この日は2023ミス「海の日」の稲川夏希さんが中心となり、ボランティアで募金を呼びかけていました。稲川さんはこの日吉駅からすぐの慶應大学卒で、母校の前での募金活動でした。

「海の救難」と聞くと、海上保安庁の船が思い浮かびますが、実際に商船が海難に遭った場合などは、海上保安庁の船がすぐに駆けつけられないこともあります。頼りになるのはその海域の漁師たちです。漁労中でも駆けつけ、お互いに協力し合う文化は長い

年月の中で漁師町に根付いています。しかし、水産業が弱体化し、関係者が減少すると、このような文化の継承が難しくなります。青い羽根募金は、海の救難ボランティアを支援しながら、日本の漁師町に伝わる海の文化を保護しているのです。

海の見えない街の中での「青い羽根募金」活動は、私たちの心に残っている島国の文化を守っているのかもしれない。なお、募金活動用の「のぼり」が新デザインになりました。どこかで見かけたら応援していただけると幸いです。(了



2023年ミス日本「海の日」の稲川さん（左から3人目）らが募金を呼び掛けた